

第48号 平成29年11月発行

# けんぽく農林ニュース

ふくしまから はじめよう。  
「食」と「ふるさと」新生運動ニュース

～県北地方の「食」と「ふるさと」新生運動に関する  
情報をお知らせします～



しいたけにはミネラルや食物繊維が豊富に  
含まれています。寒い季節には、県北地方の  
しいたけを使った鍋料理をどうぞ！



伊達市産の原木しいたけ

## NPO法人ゆうきの里東和ふるさとづくり協議会が「農林水産祭」表彰式に出席！

平成29年11月23日（木）、東京都の明治神宮会館において、農林水産業分野における国民的な祭典である第56回「農林水産祭」の表彰式が行われ、「むらづくり部門」で日本農林漁業振興会会長賞を受賞した二本松市の「特定非営利活動法人ゆうきの里東和ふるさとづくり協議会」（以下「ゆうきの里東和」という。）が表彰を受けました。

表彰式後は、ゆうきの里東和を代表して、武藤一夫<sup>いちお</sup>理事長と大野達弘副理事長が懇談会に出席し、齊藤健農林水産大臣らと歓談しました。

今回の表彰は、地域資源を生かした特産品開発や移住推進に挑戦するこれまでの取組が認められた証であると、関係者の間で喜びの声が広がっています。

ゆうきの里東和は、里山再生のモデルとしてこれからも引き続き取組を行っていく考えです。今後のさらなる発展を期待しています！（企画部）



表彰式に臨む NPO ゆうきの里東和と関係者の皆さん



農林水産大臣と懇談する武藤理事長（左）と大野副理事長（右）

## 二本松市の武藤氏が「東北農村青年会議」で優秀賞を受賞！

平成29年11月1日（水）、岩手県花巻市の湯の杜ホテル志戸平において、東北農業青年クラブ連絡協議会主催による「第48回東北農村青年会議岩手大会」が開催され、プロジェクト発表で、二本松市の武藤洋平氏が優秀賞を受賞し、「全国農村青年会議」への出場を決めました。

同大会では、各県の代表者6名によるプロジェクト発表及び意見発表が行われ、その中から最優秀賞と優秀賞2名が決定されました。

武藤氏は「地域一体の魅力豊かな農村づくり」と題し、震災後の農家民宿経営による地域への波及効果や、今年度「新・農業人教育連携促進事業」を活用して実施したモニターツアーの内容について発表を行い、特に、モニターツアー実施による既存顧客の分析や農業を通しての地域活性化の取組が高く評価され、今回の受賞となりました。

誠にありがとうございます！

（安達農業普及所）



プロジェクト発表を行う武藤氏



優秀賞となり表彰される武藤氏

## 「第69回全国植樹祭」まであと200日！

「第69回全国植樹祭」の開催まで残り200日の節目となる平成29年11月22日（水）、福島駅東口に開催までの残日数を表示するカウントダウンボードが設置され、その除幕が行われました。その後、当事務所職員が、植樹祭参加の募集ガイドなどを配布し、県民の皆様へ参加を呼びかけました。

この催しは県内7ヶ所で一斉に行われ、メイン会場の郡山駅では、福島県出身の音楽グループ「GReeeeN」の書き下ろしによる大会テーマソングの発表もありました。

「第69回全国植樹祭」は、平成30年6月10日、南相馬市で開催されますので、ぜひ御参加ください。

また、今後も、関連イベントを通じ大会気運を盛り上げる取組を実施していきますので、御注目ください。

（森林林業部）



カウントダウンボード除幕の様子



## 「田んぼの学校 稲刈り」が行われました！

平成29年10月27日（金）、福島市立飯野小学校敷地内水田において、平成29年度「田んぼの学校 稲刈り」が行われ、5年生の児童18名が参加しました。

この取組は、地域の未来を担う子どもたちが「農業・農村地域の大切さ」、「環境の大切さ」、「食・命の大切さ」について理解を深め、豊かな感性と深い見識を持つことを目的として、県が実施する「ふくしまの農育推進事業」を活用して行うもので、今回が4回目となります。

はじめに、佐久間飯野小学校長から「田んぼの学校に関わった人たちに感謝の気持ちを持って、みんなで協力して稲刈りしましょう。」との挨拶がありました。

次に、田んぼの学校長の高野久氏から鎌の使い方などを教わり、児童は田んぼの中に入り稲を刈り取っていきました。

刈り取った稲は、束ねた後に「はせがけ」を行いました。

児童からは、「昔の人は機械ではなく自分たちの手で刈っていたのは驚いた。」「今日初めて鎌を使った。最初は怖かったけど、刈っていくのは楽しかった。」などの感想が聞かれました。

（農村整備部）



立派に実った稲



飯野小学校長の挨拶



稲を刈っていく児童たち



最後に記念撮影

## 農業後継者クラブが新潟県で福島市産果物をPR！

平成29年10月21日（土）、新潟県魚沼市の「奥只見レクリエーション都市公園 響きの森公園 雪のコロシウム」において、北魚沼農業協同組合主催による「JA北魚沼大農業祭」が開催され、福島市農業後継者連絡協議会（以下「市連協」という。）が、「JAふくしま未来」ブースに出展しました。

販売した農産物は、旬のりんご「シナノスイート」、「陽光」、「王林」と、なし「新高」、「洋なし」、「ラ・フランス」、そして今年、市連協が開発した加工品のセミドライピーチ「あかつきの星」等です。

当日は台風の接近により、あいにくの天気でしたが、詰め放題を行うなど販売方法を工夫したことで、りんごとなしは完売となりました。また、たくさんのお客様に試食していただき、福島市産の果物の美味しさを広くPRすることができました。特に子供達には、果物がとても甘いと、大変好評でした。

次回の市連協のPR活動は、12月2日（土）～3日（日）に神奈川県川崎市で開催される福島県農産物流通課主催による「とびっきりのふくしまウインターフェア」への出展となります。引き続き福島市産りんご「ふじ」と加工品「あかつきの星」をPRする予定です。

当事務所では、今後も、若い農業者の活動を支援しながら、福島県の農産物の美味しさを広くPRし、風評の払拭を図っていきます。（農業振興普及部）



販売したりんご



市連協で開発したセミドライピーチ



販売・PRの様子



試食提供の様子



## 大学生が開発した新たな郷土料理・スイーツをPR！

けんぽく農林ニュース 46号、47号でも取組について紹介していましたが、平成29年11月19日（日）、伊達市の霊山地区交流館において開催された地元の美味しい物を一堂に並べて試食品を提供するイベント「大石食べ物博」で、大学生がブースを構え、自分たちで発想した新たな郷土料理・スイーツの試食品提供とPRを実施しました。

これは、「大学生の発想によるけんぽく『食』と『農』の魅力発信事業」による取組の一環で実施されたもので、これまで大学生は過疎・中山間地域の住民とともに試作を重ねながら、学生自らの発想による新たな郷土料理やスイーツを3品（「かぼまゆシチュー」、「うちの伊達ロール」、「冬至かぼちゃパイ withA」）開発しました。今回は、その3品を提供してPRし、試食した方への聴き取り調査を行いました。

また、地元のケーブルテレビが取材に訪れ大学生にレポーターを依頼すると、突然のことにも関わらず自分達の取組を一生懸命伝えてくれました。

イベント終了後の反省会では、大学生もそれぞれ感想を述べ、地元の皆さんからも「大学生に提供してもらった料理は非常に好評だった。」、「若い大学生が来てくれ一緒にイベントを実施できたことが嬉しかった。」などの声が聞かれました。（企画部）



新たな郷土料理・スイーツをPRする大学生



ブースに訪れた方へ試食品を提供しながらPR



訪れた伊達市長に大学生が聞き取りインタビュー



地元のケーブルテレビのレポーターにも挑戦

## 第3回・第4回「おいしい ふくしま いただきます！」キャンペーンを開催！

平成29年11月12日（日）と11月25日（土）、第3回と第4回の「おいしい ふくしま いただきます！」キャンペーンを実施しました。

このキャンペーンは、県産農林水産物のおいしさや安全性を県民の皆様にも再確認していただき、県内消費の拡大、地産地消の推進を図るため開催したものです。

第3回キャンペーンは、二本松市の道の駅安達智恵子の里（上り線）、の大型テント内で実施し、安達地方の直売所・加工組織から成る「アグリビジネスネットワークあだち」（以下「アグリネット」という。）が出店し、農産物や加工品の販売を行いました。また、各直売所や加工組織のブースで商品を御購入いただいたお客様にスタンプを集めてもらい、安達地方のおいしい農産物が当たるビンゴゲームを実施しました。さらに、アグリネットの各組織が開発した様々なコロッケや、試作検討中のもものホットパイの試食アンケートを実施しました。

第4回キャンペーンは、福島市のヨークベニマル福島西店で実施し、1,000円以上お買い上げの方や、県産農林水産物に関するアンケートにお答えいただいた方に県産農産物や加工品等のプレゼントを行いました。また、ライシーホワイトとミスピーチ・キャンペーンクルーによる新米「天のつぶ」や、りんご、柿、あんぽ柿の試食提供を行いました。

いずれのキャンペーンも、「天のつぶの新米はとてもおいしい。」「旬のりんごや柿、あんぽ柿が出始めると購入したくなる。」等の声が多く聞かれ、来場者に大好評でした。（企画部）



第3回キャンペーンのコロッケアンケート



第3回キャンペーンの様子



第4回キャンペーンの様子



ミスピーチ・キャンペーンクルーが試食品を提供



## 第15回うつくしま育樹祭が開催されました！

県民一人ひとりに緑の大切さを再認識していただき、平成30年6月10日に南相馬市で開催される全国植樹祭に向けた気運を高めるため、平成29年11月11日（土）に南相馬市原町区雫地内において、「第15回うつくしま育樹祭」が開催されました。

抜けるような青空の下、鳥取県の緑の少年団からの苗木の寄贈セレモニーや、富山県から寄贈されたエノキ等の記念植樹が行われ、その後、クロマツと広葉樹植栽地の保育活動が行われ、参加者は植栽木の手入れに汗を流していました。また、「葉っぱスタンプエコバックづくり」や「木工体験」等の交流・体験イベントも行われ、各ブースで思い思いの作品を作成し楽しんでいました。（森林林業部）



苗木の寄贈セレモニー



クロマツ植栽地での保育活動

## 「農商工連携きっかけづくり交流会」を開催！

平成29年11月29日（水）、福島市のホテル福島グリーンパレスにおいて、当事務所主催による「農商工連携きっかけづくり交流会」を開催し、管内の農業者や商工業者27名が参加しました。

交流会では、「農商工連携による6次化の可能性と成功例」と題して、株式会社こらぼたうんの代表取締役 中間祥二氏から講演があり、その後、5班に分かれて、6次化の可能性を探るためのグループワークを行いました。参加者からは、「アイデアが見つかった。」、「刺激を受けた。」、「連携を進めたい。」などの感想が聞かれました。

当事務所では、今後も6次化の発展のための支援を継続していきます。

（企画部）



中間氏の講演



グループワークの様子

## 国見町貝田地区の集落営農体制が整備されました！

けんぽく農林ニュース第42号にて紹介した国見町貝田地区の復興再生整備基盤事業に関連して、集落営農の実施体制が整備されましたのでお伝えします。

貝田地区の復興再生整備基盤事業による約30haの農地基盤整備は、話し合いを重ね担い手への農地利用集積を進めた結果、地区担い手への農地集積率は80%を上回り、団地への集約化率も85%を上回る計画となり、地権者は、ほぼ負担無しで基盤整備を実施できる予定です。

地区担い手は、1戸の個人と6戸の有志による農事組合法人で、そのうち農事組合法人は、水田16.5ha、畑2.8haの19.3haを貸借・集積して、水稻の他、もも、アスパラガス、シャクヤクの栽培を計画しています。そのため、平成29年9月1日（金）に、当県指導農業士である本宮市の遠藤俊朗氏のアスパラガス施設栽培経営を視察し、導入の基礎から研修するなど、法人経営に当たっての話し合い・準備を重ねてきました。そして、10月11日（水）に「農事組合法人コネクトファーム貝田」が登記・設立されました。

また、農地中間管理事業を活用しての農地集積を進め、農地の効率的かつ総合的な利用を図ることを目的に、農用地利用改善団体を設立することとなり、10月29日（日）に貝田公民館において「貝田・山根地区農用地利用改善組合」設立総会が開催されました。

このことにより、貝田地区の集落営農体制が整備され、今後の両組織の実践と活躍が期待されます。  
(伊達農業普及所)



「農事組合法人コネクトファーム貝田」設立メンバーによる視察研修



「貝田・山根地区農用地利用改善組合」設立総会





## 県北地方鳥インフルエンザ防疫演習を開催！

平成29年11月2日（木）、川俣町小島の「おじまふるさと交流館」において、当事務所主催による「県北地方鳥インフルエンザ防疫演習」を開催し、関係機関等約100名が参加しました。

前半は、鳥インフルエンザ発生時の初動防疫体制の説明や、野鳥における鳥インフルエンザの対応等の説明を行いました。

後半は、実演型の防疫演習を実施しました。鳥インフルエンザが発生した場合の取組の流れに沿って、集合センターでの受付から防護服の装着、発生農場での防疫作業を演習し、ケージ飼いや平飼いを想定した屋外テントで、生きた鶏の捕鳥作業等を体験してもらいました。

防護服を装着する手順の多さや、捕鳥の難しさ等、実際に経験しないとわからない点が多く、参加者からは、貴重な体験であった等の感想がありました。

これから、渡り鳥の本格的な飛来シーズンを迎えるに当たり、当農林事務所では、関係機関等と連携し、本病の発生予防対策及び万一の発生に備えたまん延防止対策に万全を期してまいります。

（農業振興普及部）



会議での説明の様子



実演で防護服を装着



平飼いで捕鳥作業の実技



ペールの収納作業の実技

## 「県北地方有害鳥獣被害対策研修会」を開催！

平成29年11月14日（火）、二本松市において、当事務所の主催で、有害鳥獣被害防止に係わる生産者及び関係機関・団体の担当者を対象に、有害鳥獣被害対策の手法のひとつある「集落環境診断」をテーマに「県北地方有害鳥獣被害対策研修会」を開催しました。

福島県内ではイノシシ、ニホンザル等による農作物被害が、平成27年度で約1億3千万円あり、その約半数がイノシシによる被害となっています。

有害鳥獣被害対策では、①緩衝帯の設置などの生息環境管理、②電気柵などによる被害防除、③有害鳥獣捕獲などの個体数管理の3つの対策の柱をバランスよく総合的に実施するとともに、集落ぐるみで対策を行うことが重要です。

当研修会には、二本松市の生産者、市町村担当者など19名が参加し、鳥獣被害防止対策を担当する福島県農林水産部農業振興課の鈴木幸雄主査を講師に、「集落環境診断に関する考え方」の講義と、二本松市杉四集落での集落環境診断の現地研修を実施しました。

あいにくの雨でしたが、現地研修はスムーズに行われ、鳥獣被害防止のための要望、電気柵の効果的な活用方法、集落環境診断の現状などについて、忌憚りの無い意見交換ができ、生産者や市町村職員らの意識向上に繋げることができました。（農業振興普及部）



「集落環境診断に関する考え方」の講義



集落環境診断の実習





## 伊達地域農業普及推進懇談会(第1回)を開催！

平成29年10月25日(水)、県伊達合同庁舎において、管内市町、ふくしま未来農業協同組合、伊達果実農業協同組合、伊達地方農業士会、各市町認定農業者会、福島県普及指導協力員に出席いただき、「平成29年度伊達地域農業普及推進懇談会(第1回)」を開催しました。

懇談に先立って、国見町の「道の駅国見あつかしの郷」及び桑折町にある感謝農園平井株式会社(以下「感謝農園」という。)の現地視察を行いました。

「道の駅国見あつかしの郷」では、当事務所伊達農業普及所の笹川正樹主査が、道の駅直売所で販売している特別栽培の「くにみ米」について、「くにみ米づくり研究会」が独自基準で生産・選別・販売を行っていること等を説明しました。

感謝農園の視察では、代表取締役の平井國雄氏から、GLOBAL GAP認証を取得するまでの経過やポイント、認証後の効果等について説明をしていただきました。

現地視察後は、会議室で、各担当から平成29年度の普及指導計画の6課題及び中間活動実績を説明した後、出席者との意見交換を行いました。出席者からは、特に第三者認証によるGAP取得の一層の促進や取得方法等について意見が出され、GAPについての関心の高さが感じられました。

第2回懇談会は平成30年1月下旬に開催予定です。今後とも、出席者からいただいた多くの御意見や御要望を参考として普及指導活動を効果的かつ効率的に行いたいと考えています。

(伊達農業普及所)



「道の駅国見あつかしの郷」構内直売所に陳列されている「くにみ米」



感謝農園平井株式会社のほ場で平井氏(写真左)が取組を説明



**「ペポカボチャ生産振興セミナー」を開催します！**

これまで「けんぽく農林ニュース」第44号及び47号で紹介している「ペポカボチャ」の生産振興セミナーを下記の日程で開催します。

当日は、ペポカボチャ「ストライプペポ」の育成者である国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構北海道農業研究センター 農学博士 嘉見大助氏の講演の他、これまでの活動経過と今後の展開や、ペポカボチャを使った6次化商品紹介等を行います。

ペポカボチャの生産に興味のある方は、ぜひ御参加ください。

■日時

平成30年1月11日（木）14:00～16:00

■場所

県伊達合同庁舎2階大会議室（伊達市保原町大泉字大地内124番地）

■お問い合わせ先

福島県県北農林事務所伊達農業普及所（担当：平野）

電話 024-575-3181

（伊達農業普及所）

**平成29年度  
ペポカボチャ生産振興セミナー**

このチラシを見て「ペポカボチャってなんだろう？」と興味を持った、そこのあなた！  
「ペポカボチャ」はこれから伊達地域の特産品となるかもしれない新しい品目です。  
そこで、皆さんに「ペポカボチャ」について広く知ってもらい、新たな生産希望者を募るため、下記のとおりセミナーを開催しますので、ふるって御参加ください。

記

1 日 時 平成30年1月11日（木）14:00～16:00

2 場 所 福島県伊達合同庁舎2階大会議室  
（伊達市保原町大泉字大地内124番地）

3 内 容  
 (1) 活動報告  
 今年度のペポカボチャに関する活動経過と今後の活動について  
 報告者：福島県県北農林事務所伊達農業普及所 主査 平野朝子  
 (2) 講 演  
 育成者から見たペポカボチャ「ストライプペポ」の栽培のポイントについて（仮）  
 講 師：農研機構北海道農業研究センター 農学博士 嘉見大助氏  
 (3) 商品紹介  
 ペポカボチャの商品と販売状況について  
 紹介者：有限会社三宝工業 農業部執行役員 長田吉正氏

4 参 加 費 無料

5 参加申込 裏面の参加申込用紙に必要事項を記入し、平成29年12月28日（木）までに福島県県北農林事務所伊達農業普及所宛にFAXしてください。

6 問合せ先 福島県県北農林事務所伊達農業普及所（担当：平野）  
電話 024-575-3181  
FAX 024-575-3064

主催：福島県県北農林事務所伊達農業普及所



ペポカボチャ(ストライプペポ)



ペポカボチャ種子



## けんぼくの6次化の取組の紹介

株式会社フルーツのいとう園  
6次化の新商品を開発！消費者に安全を提供！



東日本大震災以降、原発事故の風評被害による売り上げの落ち込みからの回復を図るため、平成25年から、高級大粒種巨峰を枝に付けたままの干しブドウ(枝付きドライレーズン)の加工・販売を行っています。

ドライレーズンは外国からの輸入がほとんどですが、消費者は安全性の確認がしやすい国産に対する嗜好が強い傾向があります。当社では、ブドウの生産からドライレーズンまで一貫生産を行っております。房についた自然のままの姿の商品流通は、全国的にも珍しく、本格的に取り組んだのは当社が初めてであり、その独自性をアピールするパッケージと合わせて評価され、平成28年経済産業省の「グッドデザイン賞」を受賞いたしました。

干しぶどうの差別化を図るため、中を軟らかめのセミドライにして食べやすく仕上げてあります。ぜひ御賞味ください。

### ●これまでの取組

- ① 東京のビックサイト等で開催された商談会で、マスコミ等で取り上げられ注目を集めた。
- ② NHKの海外ニュースに取り上げられ、それを見たオーストラリアの会社から注文いただき、初の輸出を実施。また、シンガポールの伊勢丹において試験販売を実施。
- ③ 昨年は、Jaluxの通販で販売。
- ④ 本年度は、株式会社アルディスでワインとのコラボで150セット販売。
- ⑤ 本年度7月、神戸大丸の販売会に招待され、3日間販売。
- ⑥ 郡山のデパートで、お歳暮品として販売を開始。

### ●事業者データ

株式会社フルーツのいとう園

住所：福島市飯坂町東湯野字上岡14番地

電話：024-563-5512

ホームページ URL：<http://www.f-itoen.com>



デュオ デレーズン(巨峰の枝付きドライレーズン)



商談会でのPRでテレビ取材を受ける伊藤代表取締役

編集・発行 福島県北農林事務所 企画部 地域農林企画課

電話 024-521-2596 FAX 024-521-2850

ホームページ <https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36210a/>

電子メール [kikaku.af01@pref.fukushima.lg.jp](mailto:kikaku.af01@pref.fukushima.lg.jp)

